

OPEN DECK

取扱説明書



Add-On Effects(アドオンエフェクト)とは

デジタルコンソールなどに高品位なエフェクトプログラムを追加して使用できるソフトウェアパッケージです。



Studio Manager Open Deckウィンドウ

Open Deck (オープンデッキ)とは

Add-On Effectsで追加使用できるエフェクトプログラムのひとつです。

録音デッキ、再生デッキの2台のオープンリールテープレコーダーによって生み出されるテープ・コンプレッションをエミュレートしています。デッキの種類、テープの質や再生速度など、様々な組み合わせによって音質が変化します。

VCM (Virtual Circuitry Modeling/仮想回路モデリング)とは

アナログ回路の素子レベル(抵抗やコンデンサーなど)からモデリングする技術です。

世界初の物理モデルシンセサイザー VL1、VP1などを開発した国本技師を中心として開発されました。Open DeckにはVCMの技術が使われています。

ご注意

- 市販の音楽 / サウンドデータは、私的使用のための複製など著作権法上問題にならない場合を除いて、権利者に無断で複製または転用することを禁じられています。ご使用時には、著作権の専門家にご相談されるなどのご配慮をお願いします。
- このソフトウェアおよびマニュアルの著作権はすべてヤマハ株式会社が所有します。
- このソフトウェアおよびマニュアルの一部または全部を無断で複製、改変することはできません。
- このソフトウェアおよびマニュアルを運用した結果およびその影響については、一切責任を負いかねますのでご了承ください。
- このマニュアルに掲載されている画面は、すべて操作説明のためのもので、実際の画面と異なる場合があります。
- このマニュアルに掲載されている会社名および商品名は、それぞれ各社の商標または登録商標です。

Open Deckのインストール

Open Deck のインストール方法については『Add-On Effectsインストールガイド』をご参照ください。

Open Deckの使用法

Open Deckは他のエフェクトと同様に、コンソールやStudio Managerでリコールしたり、エディットしたりして使用します。

操作の大きな流れは次のとおりです。

- 1 内蔵エフェクトプロセッサを選択する。
- 2 選択したエフェクトプロセッサへ入出力をパッチする。
- 3 エフェクトライブラリ画面を表示する。
- 4 Open Deckを選択し、リコールする。
NOTE リコールした瞬間、すべてのエフェクトプロセッサの出力が一時的にミュートされます。
- 5 エフェクトエディット画面を表示する。
- 6 パラメーターを設定する(各パラメーターについての説明は「[各部の名称と機能](#)」を参照)。

具体的なOpen Deckのリコール/エディット方法は、お使いのコンソールによって異なります。詳しくは、お使いのコンソールに付属の取扱説明書をご参照ください。

Studio Managerでのパラメーターのエディット

Studio Managerでは、エディットできるパラメーターが Open DeckウィンドウとGeneric Editorウィンドウの2つのウィンドウに分かれています。

基本的に、Open DeckウィンドウはOpen Deck固有のパラメーターを操作するために、Generic Editorウィンドウは他のエフェクトと共通のパラメーターを操作するために使用します。

Generic Editorウィンドウについての詳細はお使いのコンソールのStudio Manager取扱説明書をご参照ください。

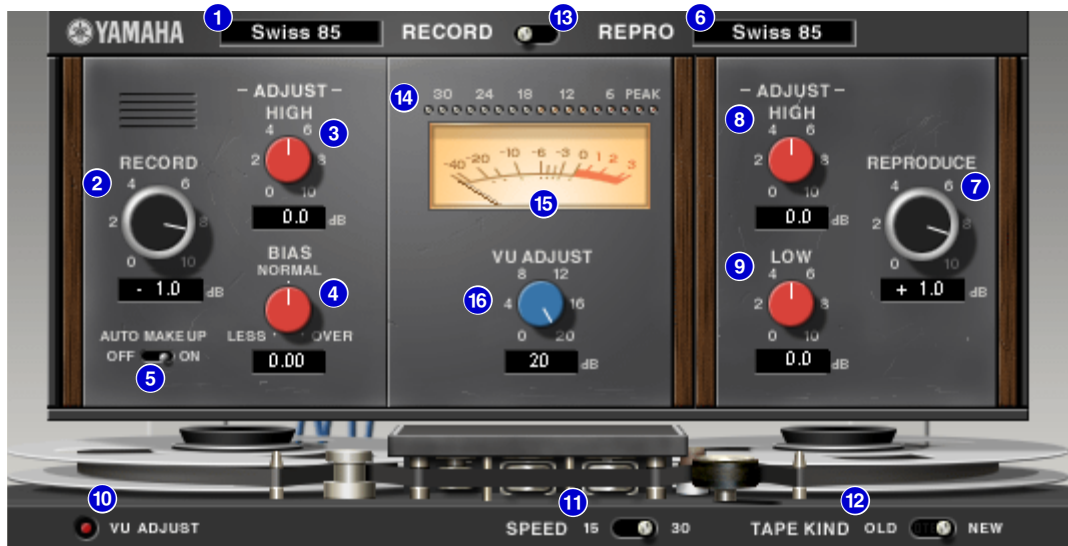


Studio Manager Generic Editorウィンドウ

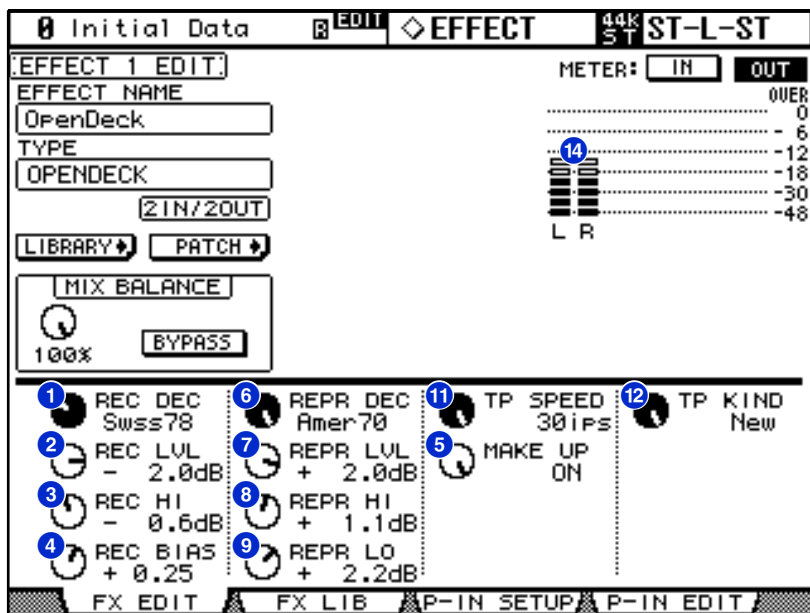
各部の名称と機能

Open Deckは主に次の4つの部分で構成されています。

- 録音デッキ部(4ページ)
- 再生デッキ部(5ページ)
- オープンリールテープ部(6ページ)
- メーター部(7ページ)



Studio Manager Open Deckウィンドウ



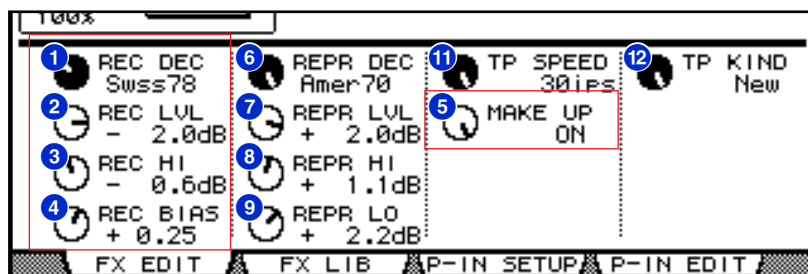
コンソール画面(この画面はDM2000のもので)

以下の説明で、

Studio Manager マークが付いている機能はStudio Managerで使用できます。

Console マークが付いている機能はコンソールで使用できます。

録音デッキ部



1 [REC DEC] **Studio Manager** **Console**

録音デッキのタイプを選択します。

NOTE 選択できるデッキは「Swiss70、Swiss78、Swiss85、America70」の4種類です

2 [RECORD]/[REC LVL]つまみ **Studio Manager** **Console**

録音デッキの入力レベルを調節します。レベルを上げていくとテープ・コンプレッションが起こり、ダイナミックレンジが狭くなったり、音が歪んだりします。

NOTE 値の範囲は「-96.0 ~ +18.0 dB」です。

3 RECORD:[-ADJUST- HIGH]/[REC HI]つまみ **Studio Manager** **Console**

録音デッキの高域のゲインを調節します。

NOTE 値の範囲は「-6.0 ~ +6.0 dB」です。

4 [BIAS]/[REC BIAS]つまみ **Studio Manager** **Console**

録音デッキのバイアスを調節します。

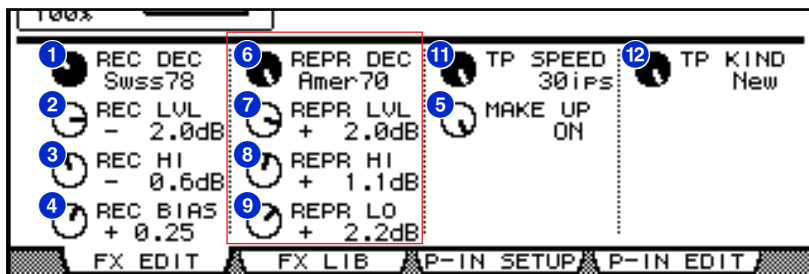
NOTE 値の範囲は「-1.00 ~ +1.00」です。

5 [AUTO MAKE UP]スイッチ/[MAKE UP]つまみ Studio Manager Console

このスイッチ/つまみをオンにすると、録音デッキのレベル([RECORD]/[REC LVL]つまみ)を動かしたときに、再生デッキのレベル([REPRODUCE]/[REPR LVL]つまみ)が連動して、一定のアウトプットレベルを保つようになります。アウトプットレベルを変えずに歪み量を変化させることができます。

NOTE 再生デッキのレベルを変えると、このスイッチ/つまみは自動的にオフになります。

再生デッキ部



6 [REPR DECK] Studio Manager Console

再生デッキのタイプを選択します。

NOTE 選択できるデッキは「Swiss70、Swiss78、Swiss85、America70」の4種類です。

7 [REPRODUCE]/[REPR LVL]つまみ Studio Manager Console

再生デッキの出力レベルを調節します。

NOTE 値の範囲は「-96.0 ~ +18.0 dB」です。

8 REPRODUCE:[-ADJUST- HIGH]/[REPR HI]つまみ Studio Manager Console

再生デッキの高域のゲインを調節します。

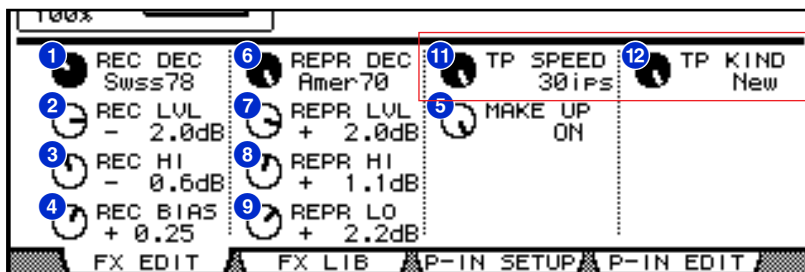
NOTE 値の範囲は「-6.0 ~ +6.0 dB」です。

9 REPRODUCE:[-ADJUST- LOW]/[REPR LO]つまみ Studio Manager Console

再生デッキの低域のゲインを調節します。

NOTE 値の範囲は「-6.0 ~ +6.0 dB」です。

オープンリールテープ部



⑩ [VU ADJUST]ボタン Studio Manager

このボタンをオンにすると、メーター部のチャンネル2のVUメーターの代わりに[VU ADJUST]つまみが表示されます。オフにするとチャンネル2のVUメーターが表示されます。

⑪ [SPEED]スイッチ/[TP SPEED]つまみ Studio Manager Console

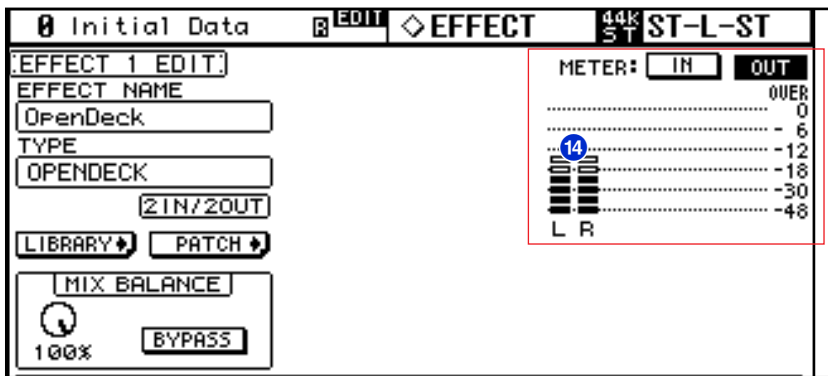
テープを送る速さを選択します。

NOTE 選択できる速さは「15 ips、30 ips」の2種類です。

⑫ [TAPE KIND]スイッチ/[TP KIND]つまみ Studio Manager Console

テープの種類を選択します。

NOTE 選択できるテープは「New、Old」の2種類です。



13 [RECORD/REPRO]スイッチ Studio Manager
 レベルメーターとVUメーターでモニターする信号をRECORD (録音デッキへの入力)、REPRO (再生デッキからの出力) のどちらかから選択します。

14 レベルメーター Studio Manager Console
 Studio Managerでは、エフェクトの出力レベルが表示されます。
 コンソールでは、入力レベルと出力レベルのどちらを表示するかをMETER: [IN][OUT]スイッチで選択できます。

15 VUメーター Studio Manager
 [RECORD/REPRO]スイッチで選択しているデッキのVUメーターが表示されます。
 表示されるメーターの数は[VU ADJUST]ボタンの状態によって異なります。
 [VU ADJUST]ボタンがオンのときは1チャンネル分の、オフのときは2チャンネル分のVUメーターが表示されます。

16 [VU ADJUST]つまみ Studio Manager
 VUメーターの0VUに割り当てるレベルを設定します。
 このつまみは[VU ADJUST]ボタンがオンのときだけ表示されます。

NOTE 値の範囲は「0.0～20.0 dB」です。

